議員全体説明会資料

令和５年６月23日
産 業 部 観 光 課

唐桑半島ビジターセンターリニューアルの進捗と御崎エリアの観光振興の方向性について（現状報告）

１ 唐桑半島ビジターセンターのリニューアルに向けた進捗について

（１）概要

トレッキング客の休憩機能と唐桑地域の文化や風習，ジオなどを紹介する機能を持った施設としてリニューアルする。

当初は，令和５年春オープンの予定としていたが，昨年９月の第127回定例会で説明申し上げたとおり国立公園内の博物展示を県に代わって市が実施することの環境省同意や，津波体験館の閉館について関係者との合意形成に時間を要したことで設計業務着手が遅れたこと，その後，実施設計を進めるなかで改めて基本設計を要したこと（*）から，更に遅れが生じ，令和６年春のオープンを目指し進めている。

（*）施設の所管を県から市へ移管するにあたり，県が事業費算定のためまとめた「唐桑半島ビジターセンター等再整備の基本方針」を基本設計同等と見なし，実施設計に着手したが（委託先：(株)東北綜企画），庁内議論や専門家の助言を受けた結果，基本的なコンセプト等の再検討が必要との認識に至り，改めて基本設計を実施したもの。

（２）建物の改修について

＜設計の趣旨＞

トレッキング客など来館者の休憩機能を重視し，くつろぎの空間を演出するものとした。建物の南側・西側・北側の壁に出入口を設け，周囲にデッキを配置し，建物内外から周囲の緑が感じられる設計とした。

また建物内部にはソファーやペレットストーブを配置するレストスペースを設けている。

展示物を配置するとともに，ワークショップなどが開催可能な多目的スペースにも，普段は椅子やテーブルを配置し，座った位置からでも展示を楽しむことが出来る設計としている（別紙１のとおり）。

＜スケジュール＞

	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
本体改修工事		←	―	―	―	―	―	→		
電気設備工事		←	―	―	―	―	―	→		
機械設備工事		←	―	―	―	―	―	→		

※デッキ，玄関アプローチ等の外構工事については，別途発注予定。

建築本体改修工事は総合評価落札方式で，電気設備改修工事，機械設備改修工事は一般競争入札でそれぞれ公告中であり，いずれも今月末に入札，７月中の契約・着工を予定している。

デッキ，玄関アプローチ等の外構工事も含め，上記工事費は全額県補助金(＊)を充てることから，市負担は生じない。

(*)県補助金の財源には環境省：自然環境整備交付金も含むが，市歳入では全額を県補助金として取扱うもの。

（3）展示について

令和４年 12 月に公募型プロポーザルを実施し，以下の２業務についてそれぞれ契約を締結し，現在，設計及び素材収集，撮影を進めている。

区分	業務概要	契約先
①展示設計施工等業務	展示物の設計，建物展示部分の空間設計，施工	㈱乃村工藝社
②展示用映像制作業務	展示用映像の企画制作	㈱ドキュメンタリージャパン

＜展示の内容構成＞

別紙２のとおり

２ 御崎エリアの観光振興の方向性について

唐桑地域はオルレ，みちのく潮風トレイルなどトレッキングの振興に取り組んでおり，観光協会およびガイドの会が，トレッキングイベントの開催や有料ガイドの販売，コース管理を行うなど，地域で主体的な取り組みが進められている。

今般リニューアルを進めている唐桑半島ビジターセンター，県営御崎野営場を中核施設として，アウトドアをテーマに更なる観光振興を図りたい。

＜課　題＞

オルレについては，コース開設から５年で１万人の利用にとどまっており，利用者増に向けた取組みが必須である。現状のコースは，スタート地点とゴール地点が異なるなどの利便性に課題を有しており，レンタサイクルの活用などを試みているが解決には至っていない。

また，県営御崎野営場については，コロナ禍でのアウトドア人気から利用者数は増加傾向にはあるものの，令和４年度の利用者数は 1,777 人，稼働率は４％と低調であり，加えて傾斜地であることなどから，キャンプ上級者の利用が中心となっている。

※オルレ及び野営場利用がいずれも伸びていないが，この要因分析も引き続き行う必要がある。

＜からくわ荘跡地＞

からくわ荘跡地については，令和２年度に（株）モンベルの子会社である（株）ネイチュアエンタープライズへ委託した「気仙沼市アウトドアツーリズム調査業務」にて，デッキに電源やトイレ，炊事場が整備されたサイトや，犬と一緒にキャンプを楽しむドギーサイトなどを備えた，グループや家族向けのキャンプ施設とし，上級者が利用する隣接の御崎野営場と一体となった総合キャンプ場としての整備について提案を受け，それをもとに周辺キャンプ施設の調査や，成功事例の調査などを実施し，整備の検討をしてきた。

しかしながら野営場が前述の利用状況にある中で，施設面の充実のみで利用率の大幅な向上を見込むことは難しく，温泉等の付加価値がない小規模のキャンプ場の経営を成り立たせていくためには，特別な魅力づくりとキャンプ場経営についてのノウハウや相当な経営努力が必要と改めて認識するに至った。

このことから，これまで前提としてきたオートキャンプ場の整備にこだわらず，広くアウトドアをイメージしつつ唐桑地域・御崎地区にふさわしい適切な活用方法について，今後も引き続き事例の調査・研究を行い，模索，検討していきたい。